

福岡市水泳協会

福岡市水泳協会は福岡水泳協会として発足し、福岡県水泳連盟に発展的に改組されたため創立時から戦後まで人的にも、組織的にも重複しているとおり、加盟会員は県水泳界の中核であると自負していた様です。

【設立年月日】 1930年（昭5）年

【加盟年月日】 1962年（昭37）年

【会 長】

満 田 隆 一	1930	(昭5)	年
不 破 武 雄	1939	(昭14)	年
笹 森 四 郎	1946	(昭21)	年
野 中 春 三	1955	(昭30)	年
宮 田 又三郎	1960	(昭35)	年
赤 羽 善 治	1961	(昭36)	年
川 辺 良 一	1974	(昭49)	年
高 木 恒 夫	1980	(昭55)	年

以上県連会長と福岡水協会長は兼任してきたが、赤羽会長を初代として、以降は、福岡市水泳協会長として明確に分離します。

林 志 男	1987	(昭62)	年
佐 谷 隆 昭	1995	(平7)	年
原 田 節 郎	1999	(平11)	年
目 野 正 利	2001	(平13)	年
中 山 登志彦	2007	(平19)	年
舟 木 佳代子	2009	(平21)	年

【理 事 長】

正 木 順二郎	1962	(昭37)	年
桑 野 正 美	1966	(昭41)	年
簀 原 友 義	1969	(昭44)	年
林 志 男	1975	(昭50)	年
原 田 節 朗	1981	(昭56)	年
矢 野 幸 盛	1987	(昭62)	年
波多江 逸 郎	1985	(昭60)	年
山 住 哲 生	1999	(平11)	年
中 山 登志彦	2005	(平17)	年
井 上 欽 弘	2007	(平19)	年
中 山 登志彦	2009	(平21)	年

(以上県水連盟資料等による)

福岡市水泳協会の歩みをたどるスタートは、1974（昭49）年に全国高校総体福岡大会1990（平2）年、2順目の「とびうめ国体」1991（平3）年に全国中学。続いて1995（平7）年には世界規模のユニバーシアード福岡大会が開催された。初の大規模な国際大会だけに県水泳連盟の中核となる会員達は直接レースにかかわる競技役員のほか練習会場の案内、警備、空港への選手送迎、選手村の世話など大変な努力をして大会は大成功に終わったようです。

そのような成果があってパンパシフィック大会の誘致が決まり、1997（平9）年8月9日―13日に福岡市立総合西市民プールで熱戦が展開された。この大会から計時、データ処理システムが稼働したので、計時、記録等の競技役員が大幅に減り、選手接待などもすべて業者に委託されたようです。

2001（平13）年7月16日から福岡市・マリノメッセをメイン会場に開催される「第9回世界水泳選手権大会福岡2001」です。

世界水泳界の最大のイベントが福岡市で開かれることは国際交流都市を標榜する福岡市の熱心な誘致運動、設備の充実は不可欠の条件であるが、それに呼応する水泳関係者・福岡市職員の大会運営能力が高く評価された結果であります。



第9回世界水泳福岡2001年(公式報告書)より

【沿革】

九州大学水泳部のメンバーが中心になって設立準備が進められ、1930（昭5）年に九大教授の満田隆一が会長に就任、下山義徳（日航福岡出張所長）を副会長、田中幸生（筑紫女学園）を専務理事に福

岡水泳協会が誕生したようです。

設立前後の状況を見ると1922（大11）年に日本水泳界はクロール泳法を採用、2年後の第6回極東選手権（大阪）で完勝したこともあって競泳熱が一気に高まります。

大濠プールが誕生するまでの福岡市の水泳事情を各校の水泳部史やOB談によると池や海岸に網を張り、泳いでいたようです。

待望の大濠プールができると市内の修猷館、福岡、福岡師範などが練習に集まってきた。1930（昭5）年に水泳部が誕生です。

1933（昭8）年には田中監督が育てた柳瀬静さんが日本選手権平泳ぎ6位はいったのが、名門筑紫女の第一歩。翌年には同校にプールが出来たようです。

そして1936（昭11）年のベルリンオリンピック200平泳ぎで、修猷館出身の葉室鉄夫選手が2分42秒5の五輪新で優勝した。福岡市からただ一人の金メダリストです。

福岡の水泳熱は一段と燃え上がり、翌年8月には大濠会場で協会と福岡日日新聞社共催の日米対抗が開かれた。だが、今までの水泳大会は九大や旧制高校の主催で、やっと新聞社が応援をはじめたようです。

その後、1958（昭33）年の日本高等学校選手権では、第3回アジア大会で100m背泳ぎ優勝デビューを果たした田中聡子（筑紫女学園）が100m、200m背泳ぎで再び優勝した。筑紫女学園は総合6位を獲得。翌年5位と健闘し1962（昭37）年の日本高等学校選手権では、筑紫女学園総合2位を獲得したようです。

1960（昭35）年のローマオリンピックでは、田中聡子（八幡製鉄）が100m背泳ぎで銅メダルに輝いたようです。

（福岡県水泳連盟機関誌、同80年記念誌、を参考資料とした。福岡市水泳協会 坂井 良明記）

【大会実績】

- [1978（昭53）バンコクアジア大会]
女子800m自由形 3位 柘原 恵（福泳会）
- [1987（昭62）パンパシフィック大会]
女子100m自由形 7位 島雄陽子（福岡大）
- [1989（平1）パンパシフィック大会]
女子200m自由形 7位 島雄陽子（福岡大）
- [1990（平2）北京アジア大会]
女子200m自由形 6位 肥川葉子
（福岡イトマン・はるおか）
- [1991（平3）パンパシフィック大会]
女子200m自由形 4位 肥川葉子
（福岡イトマン・はるおか）
- [1992（平4）バルセロナ・オリンピック]
女子400mメドレーリレー第1泳者 5位
肥川葉子（福岡イトマン・はるおか）
- [1993（平5）パンパシフィック大会]
女子100m背泳 3位 肥川葉子（はるおか福岡）
（福岡イトマン・はるおか）
女子200m背泳 3位 肥川葉子
（福岡イトマン・はるおか）
- [1999（平11）パンパシフィック大会]
男子100m平泳 7位 今井亮介（KSG岩田屋）
- [2001（平13）ユニバーシアード大会]
男子100m平泳 3位 今井亮介（KSG岩田屋）
- [2009（平21）ユニバーシアード大会]
女子100m平泳 3位 野瀬 瞳（大野城SC）
女子100m背泳 1位 酒井志穂
（ブリヂストン）
女子200m バタフライ 3位 南園 遥
（ブリヂストン）
女子100m バタフライ 3位 黒木綾乃（福岡大）
- [2009（平21）世界選手権ローマ大会]
女子100m背泳 4位 酒井志穂（ブリヂストン）
- [2010（平22）広州アジア大会]
女子200m背泳 2位 酒井志穂（ブリヂストン）